

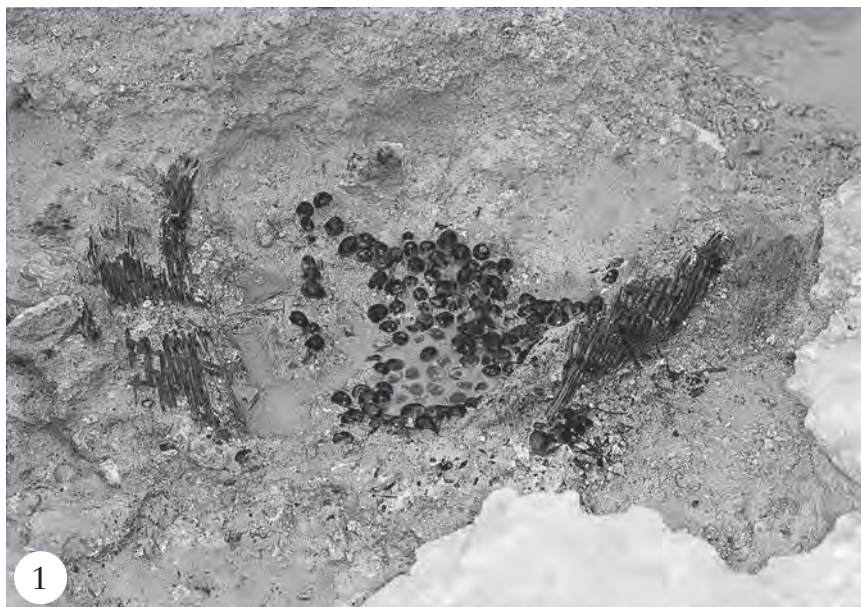
めーばる
 巻頭写真 沖縄県前原遺跡から産した縄文時代後期のオキナワウラジロガシ
 Late Jomon *Quercus miyagii* fruits discovered at the Mehbaru Site, Okinawa

沖縄島中部^{ぎのさ}宜野座村の東海岸に面する前原遺跡から縄文時代後期にあたる時期(沖縄では貝塚時代前期)の穴蔵が多数発見され、その中から多量のオキナワウラジロガシの果実(いわゆるドングリ)が確認された。これまで沖縄では縄文時代にあたる多数の貝塚が調査され、貝類や獣・魚骨など動物遺体が詳しく研究されてきたが、植物遺体の産出はあまり知られず、過去の植物相や人の植物利用に関する資料が乏しかった。南島における縄文時代のドングリ利用、およびオキナワウラジロガシをはじめ縄文時代の植生を復元するうえでの初めての豊富な資料として注目される。

穴蔵は全部で24基が確認され、すべてが海に面する谷底の縁に密集していた。これらのうち21基から多量のオキナワウラジロガシ *Quercus miyagii* Koidz. の果実が確認された。マツ属複雑維管束亜属の球果やシイノキ属の果実なども産したが、オキナワウラジロガシが他を圧倒して多量に産したため(写真2)、オキナワウラジロガシのみの穴蔵と考えられている。いくつかの穴蔵にはタケでできた編み籠(沖縄ではパーキと呼ばれる)が敷かれており(写真1)、オキナワウラジロガシ果実はその中に詰められていた。果実は多いもので1基から1865個、容積にして8550 ccにのぼった。24号穴蔵の中のシイノキ属果実および14号穴蔵の編み籠のタケ材の放射性炭素年代は、 3690 ± 90 (Beta-116070) および 3800 ± 50 (Beta-116071) 炭素年と測定された。これは本州の縄文時代後期初頭の年代である。

文献

沖縄県宜野座村教育委員会, 編. 1999. 前原遺跡 県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書. 302 pp. 沖縄県宜野座村教育委員会, 宜野座村.
 (辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)



(写真提供: 宜野座村教育委員会)